

○事業所名	放課後等デイサービス くりーむうさぎ		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童指導員・保育士を配置し、日々の療育に個別支援計画を反映し、長期スパンで取り組んでいる。また、情操教育にも力を注げるようヤマハ音楽講師などの専門講師を配置し、利用児の興味・得意分野の開発を目指す。運動分野では週末、長期休みなどを利用し運動できるイベントを拡大、室内で運動できる内容も随時企画取り組み実施。	児童の見通し、安心を最優先に活動部屋、支援ツール分類など物理的構造化を実施している。 自立した促しができるよう、児童への担当、役割などを当日ごとに割り当て、自発的行動に導けるよう取り組みを行っている。	活動を通して意思決定、考える力を養うために選択肢のバリエーションや行動に繋がるツールや導線を作り、経験を通して自立に繋がるような動き、意識がもてるようにしていく。
2	発達支援センターご教授の基、ワークシステムを導入している。SST・言語聴覚士・音楽療法士・作業療法士・理学療法士毎の講座を参考にして、独自のスタイル構築している。	利用児の特性に合わせて、ワークシステムを発展させている。保護者の意見を収集反映して、襲来的に就労支援等に役立つように、指示・理解・返答・完遂・報告の流れ・実践活動に繋がるように、常に見直し・進化を目指している。	こども発達支援センターや他事業所・専門事業所等を利用児併用の元、実地に指導アドバイスを頂き検討していく。
3	利用児童に施設活動を楽しんで頂き、土曜・祝日・長期休暇でのイベント拡充を図っている。お誕生日会・生活歳時企画・料理教室に加えて、夏祭り・ハロウィン等の企画を充実させていく。	ハロウィンに代表される利用児の嗜好に即して、新たな取り組みを拡充。どの催事企画も過去踏襲型にならないように、常に新たな取り組みを模索していく。	企業内他事業所企画や他事業所HPを参考に毎月企画をブラッシュアップしていく。今期から企業内他事業所と合同イベント（体育館使用）を企画・実践予定。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第3者機関の外部評価の促進。	日々の運営が優先になっており、管理者が主体に第3者機関を模索し、まずは初めて見ることである。 企業内他事業所との評価を始めてみる。	行政・他事業所等を参考に、勤めていく。民間企業からのアプローチも多数あるが、内容を精査し、今後の療育・運営の課題特定・改善につながるか、判断していきたい。
2	保護者会開催。	コロナ環境下、促進が進んでいない。保護者の意向を把握して、保護者会の独立した運営を目指していき、当事業所がサポートできるようにしていく。	保護者の協力と共にリーダーシップも重要。保護者会の目的・運営スタイル等、当事業所が保護者の意見を反映して組み立てていく。
3	地域・他事業所交流の促進。	上記同様に保護者の意向が重要である。促進を望まれる前提では、地域・他事業所への打診含めて、当事業所がコーディネートしていく。	地域・他事業所との相互理解が必要である。 まずは企業内他事業所との交流イベントからスタートする。